

<報告様式>

一般社団法人 名古屋林業土木協会会員のCN、GX、生物多様性、DXなどの取組事例

実施主体	株式会社 梅田組			
区分	CN (カーボンニュートラル) 温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させること。 2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする政府目標。	GX (グリーンTRANSフォーメーション) 化石エネルギーを中心とした現在の産業構造・社会構造をクリーンエネルギー中心へ転換すること。脱炭素化社会を構築しようとする取り組み	NP (ネイチャーポジティブ、生物多様性) 生物多様性の損失を食い止め、反転・回復軌道に乗せること。COP15(2022年)において2030年までに実現することとして設定された国際目標	DX (デジタルTRANSフォーメーション) データとデジタル技術を活用してビジネスモデルを変革し、業務や、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立させること。
取組名称	環境性能の高い重機や車両類の買替更新			
具体的な取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・環境性の高い最新型の重機及び車両への買替を積極的に行うことで、燃費性能の向上を図り、カーボンニュートラル・グリーンTRANSフォーメーションの実現に寄与する。 ・具体的には事業で用いる重機（ホイローダー、油圧ショベル等）や車両（トラック等）の買替を行う際に、最新型であること、環境性能（燃費、温室効果ガス排出量、内燃機関形式等）の高さを重視して選定を行う。 			
経費	<ul style="list-style-type: none"> ・最新型かつ環境性能（燃費、温室効果ガス排出量、内燃機関形式等）の高さを重視して選定を行うことで、取得価格は割高になるものの、維持コスト（燃料費、車両税、整備費用）が割安となるため、使用期間全体での、ライフサイクルコストは、結果的に割安が見込まれる。 			
効果	<ul style="list-style-type: none"> ・直接的効果として、燃費の向上による、排出CO₂の削減、化石エネルギーの使用量削減が見込まれる。 ・間接的効果として、最新型の重機等を導入することによる、生産性の向上、工期短縮等が見込まれる。 			
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・重機・車両について、納期の長期化が慢性的な問題となっている。中長期的な車両取得計画を検討することで、投資コストやランニングコストの最適化を図ることが必要となっている。 			
備考欄	<ul style="list-style-type: none"> ・最新機種について、燃費性能の良さや、整備費用を節約出来ていることを実感している。 			

写真①



写真②

